

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第 25 号—



SI30 竪穴建物跡 周囲の竪穴建物跡と比べてその大きさがよくわかります

へいあん しょうらく いしばし 平安時代の^{しゅうらく}大集落～石橋遺跡～

石橋遺跡は、八戸市中心市街地から南東に約 4 km、新井田川右岸の標高 47 ～ 72 m の丘の上に立地しており、縄文時代から近世までの遺構・遺物が確認されている遺跡です。令和元年度から調査を行い、令和 3 年度は遺跡南側の緩斜面の発掘調査を行いました。古代の^{たてあな}竪穴建物跡 16 棟をはじめ、掘立柱^{ほったてばしら}建物跡 4 棟や溝跡 2 条などがみつかり、今からおよそ 1,100 年前、平安時代中頃の拠点集落と考えられます。

表紙の写真は、石橋遺跡でみつかった大型の竪穴建物跡で、一辺が約 10 m、床面積が約 100

m²あります。これまで八戸市内でみつかりしている平安時代の竪穴建物跡の中でも最大級の大きさです。深さ 1 m 前後のしっかりとした柱の穴が 4 個みつき、北西側の壁に設けられたカマドからは、長さ約 3 m の煙道^{えんどう}が伸びていました。さらに調査をしていくと、床の下から古いカマドの跡と柱の穴がみつき、建物を広くするため建て替えられたことがわかりました。この竪穴建物跡からは、銅製の刀飾^{とうせい}りが出土しています。周辺の集落をまとめていた有力者が住んでいたのかもしれませんが。 (次頁へ続く)

竪穴建物跡からは、食器の土師器の坏、煮炊きのための土師器の甕、貯蔵などに用いられた須恵器の壺や甕、砥石などの石器、鉄製品などが主に出土しています。

中でも、南側の竪穴建物跡からは須恵器が廃棄された状態で大量に出土しました。須恵器は窯で焼かれる硬い土器です。周辺で窯がみつかっていないため、他地域で作られ、運ばれてきたと考えられます。

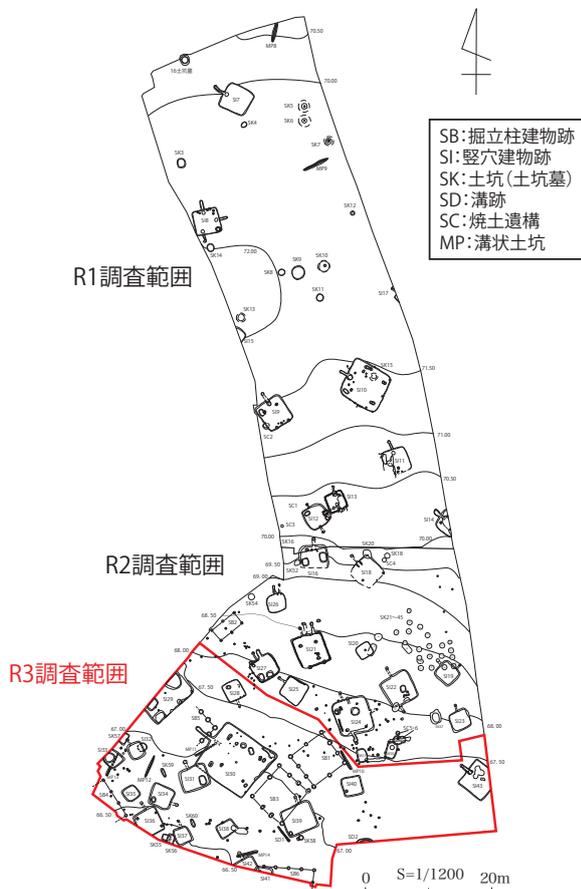
鉄製品には、武器または狩猟のための鉄鏃、木の伐採や加工のための鉄斧、鎌や手鎌といった農耕具、刀子や紡錘車などの生活用具があります。中でも令和3年度の調査では、革帯の長さを調節する鉸具や鏡の吊り金具、兵庫鎖などの馬具の一部が出土し、馬を利用し生活が営まれていたことがわかりました。前年度の調査では、鍛冶炉や金床石、ふいごの羽口といった、鉄製品の製作・加工に関わる施設や道具が出土しており、これらの鉄製品は

集落内で作られていたと考えられます。

ほかにも、動物の骨や貝、炭化した穀類、塩を作るための土器、炭化した木製の椀や繊維製品など生活に関わる資料が多数みつかっており、集落での人びとの生活のようすが明らかになってきています。(山田 貴博)



須恵器の出土状況



遺跡南側の斜面に、特に建物などが集中しています。



出土した須恵器



出土した馬具と考えられる鉄製品

発見！国内最古級の土面^{どめん いちおうじ}～一王寺遺跡～

一王寺遺跡は、中居遺跡・堀田遺跡を含む「史跡是川石器時代遺跡」のひとつです。令和元年度から継続して、遺跡南側の遺構分布を確認するための調査を行っています。

令和3年度までの調査によって、①遺跡南側の緩やかな斜面地には、縄文時代前期中葉から後期前葉までの集落跡があったこと、②^{たてあな}竪穴建物などがみつかるとともに、居住域は、限られた範囲に繰り返し作られたことなどが明らかになってきました。

また、居住域の南北では、大量の遺物を含む盛土が広い範囲で見つかりました。特に北側は盛土が厚く堆積していることから、現在よりも起伏に富んだ地形だったと想定され、遺物や土砂によって凹地が埋まったと考えられます。

盛土からは、縄文時代前期中葉から中期中葉までの大量の土器や石器のほか、顔を表した土製品である土面が出土しました。

土面は、縄文時代中期中葉の円筒上層c式期の遺物を含む土層から出土しました。表面には棒状の工具による刺突が多数施され、粘土紐の貼り付けによって眉や鼻を、3つの貫通穴によって目や口を表現し、裏面は平らに磨かれていることが特徴です。大きさは、直径約8cm、厚さ1.2cmと小さく、被ったのではなく、手で持つなどして使ったと考えられます。

表面の刺突の形状や施文手法の特徴、周辺の出土遺物などから、土面は円筒上層c式期相当のものと考えられ、現時点で国内最古級のものです。（宇庭 瑞穂）



遺跡南側の遺構分布模式図



広い範囲で盛土がみつかりました。遺物を含んだ土砂が、南から北に向かって下降しながら、積み重なっている様子も確認されました。



土面（縄文時代中期中葉、一王寺遺跡出土）

発掘された南部氏家臣の城～新田城跡～

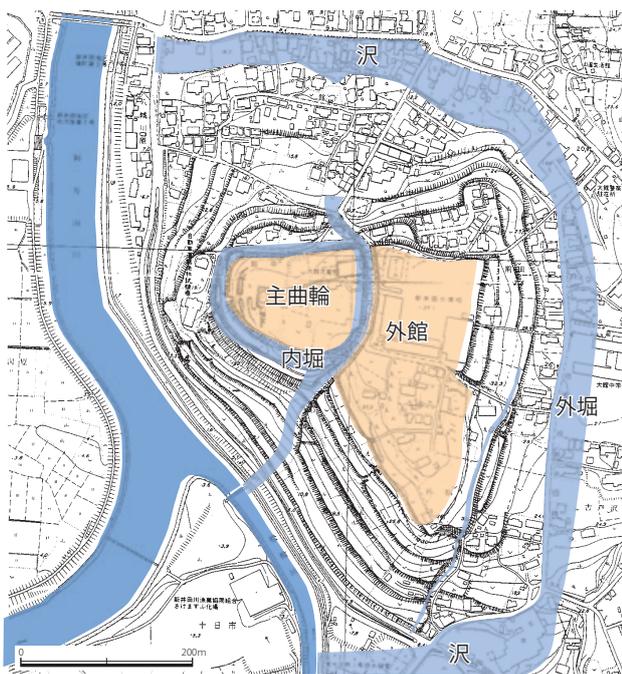
新田城跡は八戸市立新井田小学校周辺に位置し、文献の研究から室町時代から江戸時代初期に八戸（根城南部）氏の家臣である新田氏が居城としていたとされています。『新編八戸市史』編纂のための調査では、城の中心的な区画「主曲輪」と「外館」、そしてそれらの区画（曲輪）を囲む「内堀」や「外堀」、「帯曲輪」があったと考えられています。

平成30年度から城の中心となる主曲輪部分の内容を確認するため、約15,300㎡を対象に発掘調査を行ってきました。調査の結果、主曲輪は平場をつくるために大規模な造成が行われていることがわかりました。また、主曲輪西側では切土や土手（土塁）を組み合わせて

て通路のように造っている様子を確認することができました。また、主曲輪の内部に掘立柱建物のほか、竪穴建物や炉などの施設があったことがわかりました。掘立柱建物は、同じ場所に繰り返し建てられているようすを確認することができました。

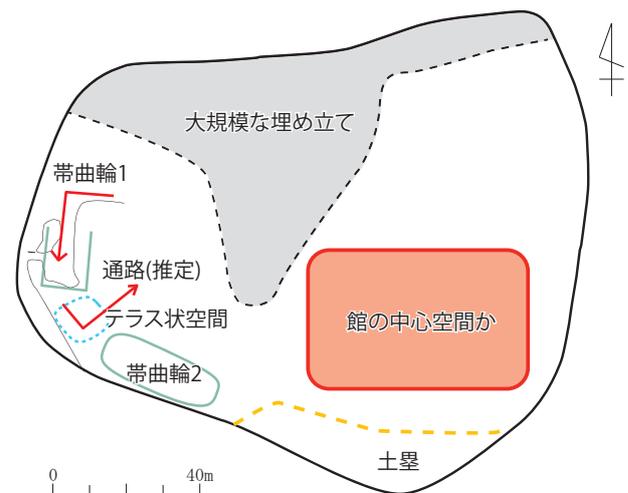
出土品には、小札（鎧などの部品）や、ふいごの羽口（炉に空気を送る管）などのものづくりの道具、天目茶碗や茶臼など茶の湯の道具があります。また、出土品の自然科学分析によって、主曲輪で真鍮（銅と亜鉛の合金）を加工していたことがわかりました。

（上ノ山 拓己）



新田城跡の曲輪・堀の推定図（上が北）

『新編八戸市史 考古資料編』（市村高男 原図）を加工して転載



判明した主曲輪内の構造

掘立柱建物が繰り返し建てられた主曲輪南東部は、曲輪の中心的な空間と考えられます



天目茶碗



小札

紐で綴じ合わされた状態で出土しました



新田城跡の土塁

土塁が現在まで残っていることがわかりました

祝！世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」

令和3年7月27日、第44回世界遺産委員会にて、当市の是川石器時代遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録されました。北海道・北東北の縄文遺跡群は、北海道・青森県・秋田県・岩手県の17の遺跡からなり、豊かな自然の恵みを受けながら、1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人びとの生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産です。

八戸市初の世界遺産を祝賀するため、当日のパブリックビューイング、翌日の登録記念セレモニーを行い、11月には登録記念式典を開催しました。また、看板やバナーフラッグを新たに掲示したほか、ラッピングバスの運行、旅行誌などへの記事掲載、オリジナルグッズの作成、小学校高学年向け社会科副読本の作成など市内外に向けたPRを行いました。世界遺産登録まで15年という歳月を要しましたが、これはゴールではなくスタートです。人類共通の財産となった是川石器時代遺跡を恒久的に保存し、その価値を正しく伝えていく大切な仕事の始まりです。今後とも、遺跡へのご理解・応援をよろしく申し上げます。（小久保 拓也）



八戸市庁前広告塔



登録記念式典（遮光器土偶ドレス）



縄文ラッピングバス

史跡是川石器時代遺跡の整備に向けて - 建物の撤去と調査③ -

八戸市では、是川石器時代遺跡を将来にわたって生涯学習や観光などの拠点、憩いの場として活用していく「是川縄文の里」の整備を進めており、令和元年度から縄文時代の風景へ戻すため、史跡内の建物撤去工事を進めています。

令和3年度は、昭和49年に建築した歴史民俗資料館の地上部分解体を行いました。同館は考古資料のほか、民俗資料の収集・保管・展示を行った施設であり、平成23年5月に閉館しました。博物館の開館後は、是川遺跡出土品の展示を充実させ、企画展示も行われました。（小久保 拓也）



八戸市歴史民俗資料館



建物の解体工事



地上部分工事の完了



是川遺跡の全てがここに！是川縄文館開館 10 周年記念特別展「是川遺跡」開催！

開催期間：令和3年7月10日（土）～8月31日（火）

是川縄文館の開館 10 周年を記念して、隣接する是川遺跡について当館の過去 10 年間の調査研究や大学との共同研究成果を中心に、出土品 244 点（うち重要文化財 100 点）、復元品 7 点を含む 271 点を展示しました。

展示では、①是川縄文ムラのうつりかわり、②縄文時代前期の是川、③縄文時代中期の是川、④縄文時代晩期の是川、⑤世界のなかの是川、⑥是川遺跡を未来につなぐの 6 つのテーマで構成しています。約 5,000 年間にわたるムラのうつりかわりや、一王寺・中居ムラの暮らしを紹介するとともに、平山郁夫シルクロード美術館の協力のもと、中国、南・西アジア・ギリシアの農耕牧畜文化の出土資料を展示し、文化の多様性や、世界遺産となった是川遺跡の魅力を再発信しました。会期中、小中学生向けギャラリートークを 3 回開催し、さまざまな年代の方に是川遺跡について理解や関心を深めていただく機会としました。（落合 美怜）



会場の様子



赤色漆塗り土器（是川中居遺跡）



南・西アジア出土資料

人が身を飾る意味とは？「装い-身を飾る人びと-」開催！

開催期間：令和3年10月16日（土）～11月28日（日）

令和3年度の秋季企画展は、人の暮らしに密接にかかわる「装い」をテーマとし、それに関する重要文化財 23 点を含む 353 点の優品を展示しました。

本展は①装いとは・②縄文の装い・③縄文、その後の装い・④現代の装い・⑤身を飾る人びとの 5 つの内容で構成し、八戸近辺における旧石器時代から現代までの装いの種類や意味の移り変わりについてわかりやすく紹介しました。

また、会期中には、「縄文人が“装う”意味」をテーマとした講座を開催しました。八戸近辺だけでなく日本各地の縄文時代の装身具の素材や身に着け方、身に着けた人物のムラにおける立場などについて、参加者のみなさまにより深く知っていただく貴重な機会となりました。そのほか、本展では千葉学園高等学校の生徒が縄文土器や土製品の文様を基に制作したブローチやヘアゴムといったグッズも展示しました。縄文文様のデザイン性の高さ、現代のファッションとの親和性は、縄文時代に関心のなかった人も惹きつける新たなきっかけとなったようです。（佐藤 ちひろ）



会場の様子



大型土偶頭部（岩手県森内遺跡）



縄文グッズ（千葉学園高校生制作）

令和3年度是川遺跡出土品保存修理事業

「青森県是川遺跡出土品」は、平成23年度に330点が重要文化財に追加指定されました。この中には、漆製品や木製品のように状態が変化しやすいものや、修理や補強が必要なものがあり、継続的に修理などを行っていく必要があります。令和3年度は、土器3点、漆製品8点の計11点の保存修理及び保存台の作成を行っています。

修理では、まず欠損部の細部の観察やX線撮影によって、外から見えないヒビなどがないかを確認し、クリーニングを行った後に、それぞれの状態に応じた修理が行われます。土器は、一度破片ごとに分解した後、歪みがないように接合し直し、欠けている部分がある場合は樹脂などで補います。最後に、補填部分に、本来の部分と区別がつくように色を塗って完成です。

保存修理を行うことによって、出土品は本来の美しい姿をよみがえらせるとともに、安定した状態を保ちながら展示等で公開・活用することができます。大切な文化財を未来に伝えていくために、今後も少しずつ保存修理を進めていきます。(上ノ山 拓己)



1年間を振り返って

今年、新規で学芸員に採用されました。今年は、是川縄文館10周年記念、そして世界遺産登録という記念すべき瞬間に立ち会うことができたことが、本当に幸運でした。最近では、全国各地からお客様のご来館があり、高い注目が伺えることから、今後とも展示やイベントなどを通し、是川遺跡や縄文の魅力をお伝えしていきたいと思えます。

個人的には、中居遺跡出土の漆塗り製品をご覧いただき、当時の技術の高さを実感していただきたいと思えます。当館では、漆塗りを疑似体験してもらうため、小中学生向けの考古学クラブでかぶれない漆を使ったオリジナル土器の製作を企画・実施しました。

また、この考古学クラブ参加者の2名が縄文是川ボランティアに参加してくれることになり、中学生ボランティアが誕生しました。お二人とも考古学クラブに長年参加して「縄文が好き。」という気持ちを育てていたようです。彼女たちの今後の活躍にも注目したいですね。(菊地 智慧)



ギャラリートークのようす



考古学クラブ漆塗りの体験



オリジナル漆塗り土器の完成



令和3年度 八戸市内発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (m ²)	種別/主な時代
市内遺跡発掘調査事業	塩入遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R3.4.5	7.8	散布地/縄文・平安
	塩入遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R3.4.6	8.8	散布地/縄文・平安
	八戸北インター第2工業団地開発予定地	試掘調査	工業団地開発	R3.4.6~5.31	3022.5	散布地・集落跡/縄文・平安
	盲塚沢(2)遺跡	試掘調査	寺院建築	R3.4.8	11.3	散布地/縄文
	熊野堂遺跡①	試掘調査	建売住宅建築	R3.4.8	14.4	集落跡/奈良・平安
	田面木遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R3.4.9	9.22	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
	松ヶ崎遺跡第21地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	R3.4.12・13・27	83.1	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
	中道遺跡	試掘調査	個人住宅建替	R2.6.1	40.5	散布地/縄文
	松ヶ崎遺跡第20地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	R2.6.18~22	46.5	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
	新井田古館遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R3.4.15	9.5	集落跡・城館跡/縄文・奈良・平安・中世・近世
	市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R3.4.16	7.5	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	雷遺跡第13地点	試掘調査	宅地造成	R3.4.19~5.11	98.0	散布地/縄文・平安
	丹後谷地(3)遺跡①	試掘調査	送電用電気工作物建設	R3.5.6・7	12.0	散布地/縄文・平安
	田面木遺跡第58地点	試掘調査	個人住宅建築	R3.5.13.	23.0	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
	前川目遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備設置	R3.5.17~20	62.0	散布地/縄文
	田面木遺跡第59地点	試掘調査	個人住宅建築	R3.5.24・25	20.5	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
	丹内遺跡第3地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	R3.6.18・21	188.0	集落跡/縄文・奈良・平安
	八戸城跡①	試掘調査	個人住宅建築	R3.6.23・25	11.8	城館跡/縄文・弥生・古墳・近世
	市子林遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R3.7.5	18.0	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	法霊林遺跡第9地点(1・2次)	試掘調査	個人住宅建築(接道設置)	R3.8.19 R3.10.25・26	32.0	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	館平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R3.8.25	4.0	集落跡・城館跡/縄文・平安・中世
	沢目遺跡①	試掘調査	長屋住宅建築	R3.9.8	6.8	散布地/縄文
	沢里山遺跡①	試掘調査	賃貸住宅建築	R3.9.14・15・24	58.5	散布地/縄文・奈良・平安
	鴨平(1)遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備設置	R3.11.1	36.0	散布地/縄文
	中野館跡①	試掘調査	個人住宅建築	R3.12.2・3	16.0	城館跡/縄文・中世・近世
	沢目遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R3.12.7	7.0	散布地/縄文
	市子林遺跡第25地点	試掘調査	個人住宅建築	R3.12.14・15	7.5	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	新井田古館遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R4.3.8	12.0	集落跡・城館跡/縄文・奈良・平安・中世・近世
	市子林遺跡④	試掘調査	個人住宅建築	R4.3.18	12.0	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	石橋遺跡第12地点	本調査	長芋作付け	R3.6.1~11.10	1300.0	集落跡/平安
	田面木遺跡第59地点	本調査	個人住宅建築	R3.6.11~25	25.7	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
	法霊林遺跡第9地点(1・2次)	本調査	個人住宅建築(接道設置)	R3.9.1~9 R3.11.15~25	42.4	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	松ヶ崎遺跡第11地点	本調査	長芋作付け	R3.9.1~12.11	777.0	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
市子林遺跡第25地点	本調査	個人住宅建築	R3.12.21~12.28	17.7	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	
一王寺遺跡	確認調査	史跡内容確認	R3.6.1~9.8	564.0	集落跡/縄文	
新田城跡(館平遺跡)	確認調査	保存目的の確認調査	R3.7.1~8.31	266.0	集落跡・城館跡/縄文・平安・中世	
受託事業	八戸城跡第48地点	本調査	祭器庫建築	R3.4.6~4.28	123.9	城館跡/縄文・弥生・古墳・近世
	八戸城跡第52・53地点	本調査	道路改築	R3.6.2~7.16 R3.8.11~11.30	237.0	城館跡/縄文・弥生・古墳・近世
	笹ノ沢(2)遺跡	本調査	工業団地開発	R3.6.1~6.30	1020.0	散布地・集落跡/縄文・平安
	笹ノ沢(6)遺跡第1・2地点	本調査	工業団地開発	R3.6.24~7.30 R3.8.30~9.10 R3.10.27~12.2	3656.0	散布地・集落跡/縄文・平安
	平(2)遺跡	本調査	工業団地開発	R3.7.20~10.29	1674.0	散布地・集落跡/縄文・平安

《調査事務局》(令和3年度)

八戸市教育委員会
 教育長 伊藤 博章
 教育部長 石亀 純悦
 教育部次長兼教育総務課長 中里 充孝
 是川縄文館長 工藤 朗
 副館長 松橋 広美
 《埋蔵文化財グループ》
 参事(埋蔵文化財GL) 渡 則子
 主査兼学芸員兼社会教育課主査兼学芸員 横山 寛剛
 主査兼学芸員 田中 美穂
 主査兼学芸員 苺坪 祐樹
 主事兼学芸員 上ノ山 拓己
 主事兼学芸員 宇庭 瑞穂
 主事兼学芸員 山田 貴博
 発掘専門員 小笠原 善範
 発掘専門員 宇部 則保
 事務員 遠藤 幸子
 《縄文の里整備推進グループ》
 副参事(縄文の里整備推進GL) 小久保 拓也
 副参事 大野 亨
 主幹 金澤 匡志
 主幹 番沢 裕子
 主査兼学芸員 市川 健夫
 主事兼学芸員 落合 美怜
 主事兼学芸員 佐藤 ちひろ
 主事 関根 柔和
 主事兼学芸員 菊地 智慧
 事務員 下沢 雅代
 事務員 栗谷川 恵美
 事務員 鈴木 麻琴



《令和3年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第179集 八戸城跡第48地点

第180集 八戸市内遺跡45

第181集 一王寺遺跡概報

掘りday はちのへ 第25号

発行年月日 令和4年6月17日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
 〒031-0023
 青森県八戸市大字是川字横山1
 TEL 0178(38)9511
 E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
 https://www.korekawa-jomon.jp
 (是川縄文館ホームページ)
 印刷 大東印刷株式会社

印刷部数: 1,000部 印刷経費: 一部あたり98.45円

